

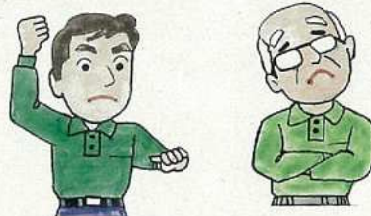
支援の対象となる枝打ち

「屋敷林維持管理の手引き」より

屋敷林は、夏は強い日差しを遮り、冬は季節風から家屋を守り、砺波平野全体の気象条件を和らげる役割を担っています。また、様々な生物が生息し点在するビオトープとして自然生態系にも貢献しています。

このようなことから、単に生活様式の変化による過度な枝打ちや伐採を行わず、今後次世代に渡り散居景観を守り育てていくために、地域への協力により散居景観の保全、育成及び維持管理を行うこととします。

みんなで協力して
散居景観を守ろう！



どんな枝打ちに対し
て支援してもらえる
のかな？

支援の対象となる枝打ち

事例①



地上から4.0m程度の枝を落とした屋敷林

事例②



全体を透かすように枝を落とした屋敷林

1 屋敷林の形態

屋敷林は高木層を中心に、中低木層を含んでいるものを言う。ただし、中低木層のみで構成した庭園仕立てを目的としたものは、屋敷林に含まれません。

2 屋敷林の枝打ちの目的

- (1) 敷地内に適度な光を入れ中低木の育生環境を整え、持続的な屋敷林を育生する。
- (2) 樹木が受ける雪害、風害、病虫害等を軽減する。
- (3) 家屋や田畑等に悪影響をおよぼす枝を除去する。

3 屋敷林の枝打ち方法

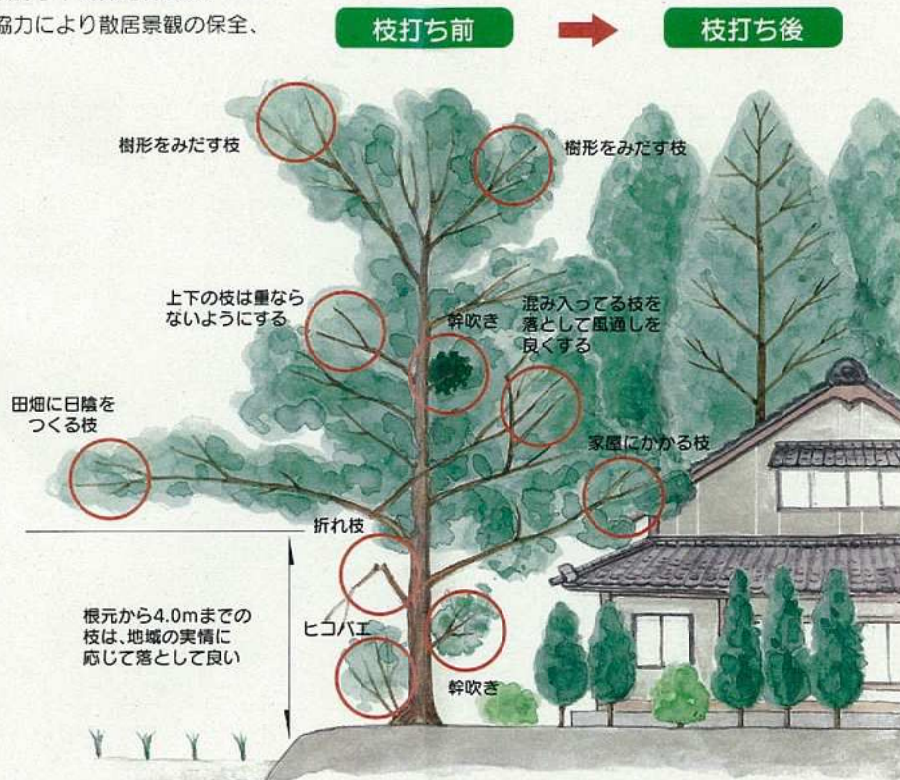
- (1) 屋敷林の枝打ちは葉の量が現況の60%以下にならないように行う。
- (2) 樹高10m以上のものは、地域の実情に応じ地上から4m程度の枝を落としても良い。
- (3) 枝が全方向に広がるようにし、上下の枝は重ならないようにする。
- (4) 隣接している枝が隣合している場合、弱いと思われる枝を落とす。

4 枝打ち時期

枝打ち時期は、樹木毎の特性を考慮し、交付決定日以降から降雪前までに行う。

5 その他

- (1) 樹木が混み入っている場合、状況に応じ間引きする。
- (2) 高木の下方に中低木が植栽されていない場合、その地域にあった中低木を植える。



- 今ある樹形を変えない枝打ちをしましょう。
- 屋敷林の効果を失わない枝打ちをしましょう。
- 風通しの良くなる枝打ちをしましょう。
- 中低木に光をあてる枝打ちをしましょう。



支援の対象とならない枝打ち



幹だけ残す過度の枝打ちは支援の対象となりません。

葉っぱが無くなって
木がかわいそうだ